



2011. November
第 7 号

日本演出者協会 協会誌「ディー」

題字 千田是也

新劇の代表的演出家・千田是也氏の文字をロゴデザインに使用。

(資料提供/早稲田大学坪内博士記念演劇博物館)

特別対談『演出家と劇場』

鴻上尚史 × ペーター・ゲスナー

Contents

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| ■特別対談「演出家と劇場」……2 | ■理事会報告……15 |
| ■国際演劇交流セミナー2011(ロシア・スイス)……5 | ■総会報告……15 |
| ■演出家養成セミナー2011(廿日市・下関・愛媛・福岡)……6 | ■新入会員紹介……16 |
| ■演劇CAMP in 中津川……8 | ■退会・訃報……16 |
| ■フェニックス・プロジェクト……10 | ■アンケート「劇場をどこに建てますか?」……18 |
| ■日本の近代戯曲研修セミナー2011……12 | ■部会だより……19 |
| ■若手演出家コンクール 中間報告……13 | ■アンケート「協会の役割とは?」……20 |
| ■日本演出者協会 事業担当……13 | ■ホームページ報告……20 |
| ■各地域活動通信……14 | ■編集後記……20 |

日本演出者協会誌「D」(ディー) 第7号 定価=無料 2011年11月1日発行 平成20年11月創刊(毎年2回発行)

【発行人】和田喜夫(理事長) 【編集人】篠崎光正(広報部長) 【編集委員】篠本賢一/三谷麻里子/小川功治朗/大杉良/今井夢視
【インタビュー編集】鷺谷憲樹 【発行所】日本演出者協会 東京都新宿区西新宿6丁目12番30号芸能花伝舎3F(〒160-0023) 電話 03-5909-3074
【編集・制作】日本演出者協会広報部協会誌「D」編集委員会 【題字】千田是也「Marionetto」より 【印刷所】有限会社一光堂印刷
【表紙デザイン】前嶋のの 【本文デザイン】奥秋圭



劇団 八〇年代といま

鴻上■ぼくら第三舞台は幸運なことに今回30年経つんですけども、お客さんは支持してくれて、チケットがない状態で最後を迎えようとしているんですね。寛(利夫)とぼくで、ある演劇雑誌のインタビューを受けていたんだけど、彼が「ホントに第三舞台は厳しくて、稽古も長いし要求もキツイ。鴻上が芝居の中にダンスを入れるってわかったら週3でジャズダンスを習い始めた」と言っただけ(編注:ついに算利夫はヒップホップなどを含め週6日でダンスを習うまでになる)。「虚構の劇団」の若いやつら、9人しかいないので熱心な連中が生き残っているんだと思うんですけど、どんなに熱心でも、芝居の稽古の合間に週6日ダンスを習いにいくほどの、なんていうんでしょうかね、ある種の「肉食的」なものを持つやつは、いないなああってね。その最中にいるときはぜんぜん意識しなかったんだけど、振り返ってみるとぼくらはそれくらい、客を集めることとか芝居で食うこととか名前を上げることとかにすっごく貪欲だったんだなって思うんです。いまの若いやつらにそこまでの貪欲さを求めても無理なんじゃないか、つまり貪欲さの種類が違うって気がすくしますね。

——ゲスナーも自分の劇団「うずめ劇場」を1回休んで

日本演出者協会広報誌『D』: 特別対談

演出家と劇場

文章・構成: 鷲谷憲樹 / 写真: 岡本隆史

作家・演出家

鴻上尚史 × ペーター・ゲスナー

演出家

小劇場演劇が社会現象になっていた八〇年代はいまとなが違うのか。
劇場と社会を結ぶ劇団の役割とは。
演出家のできること、すべきこととはなにか。
鴻上尚史とペーター・ゲスナー、ふたりの視点から見える道筋を追う。

いますね。
ゲスナー■私たち、地方の劇団だったですから。私の悩みはちよつと違って。いちばん最初から、街になにか役に立つ演劇が作りたかったんですね。北九州市の神社の境内とか寺の本堂とか、社会を繋いでいるところでの演劇のやりかたを探してみても。東京のせんがわ劇場に来て、そこでゼロからいままでもなかったシステムをつくってみたんですね。公立劇場として必要と、むりやりアンサンブル作りしました。地方でできなかったことは、仙川は東京だから、できてたんですね。1年のプランを組んで、ジャズフェスティバルとか、いままでも日本になかっ

演出家と劇場 対談: 鴻上尚史 × ペーター・ゲスナー

た大人の人形演劇とか、クリスマスメルヘンをやるとか。つまり、自分の演出の仕事をちよつと減らして、芸術的な仕事をちよつと置いて。今の時代に街に必要な演劇スタイルのモデルをひとつ作るつもりだったんですね。市役所と話し合いをするのは大変だったんですけど、私も下手くそなところあったかもしれないですけど、結局いまでも私のシステム続けているから。4年間やって、いまは芸術監督ではなくなった。

鴻上■次は誰なの？

ゲスナー■ない。芸術監督も、最初のプランニングには入ってなかったんです。私アドバイザーとして呼ばれたときに、芸術監督にならないとしませんって言った。結局は芸術監督として動いたんですけど。

鴻上■次の芸術監督というシステムは生まれなかった？

ゲスナー■生まれなかったです。最初からそういうふうやりたくなかったみたいだし、市はやっぱ全部の責任を自分でとりたかったんです。公務員さんは公務員じゃない人の言うこと聞くのは慣れていないんです。それは大きな問題みたいね。ハードウェアはあったけどソフトウェアはなかったので私つくった。その時は芸術監督すごく必要だったみたいですけど、ぜんぶできたところでそのままで変化するつもりもない。そのまんま続けるには口うるさい芸術監督はいないほうがいいみたい。

鴻上■それはこの機会に言ったほうがいいね。そういう人いないとすぐにダメになるのにな。

ゲスナー■誰でもいいんですけど、私みたいな人がいて「あれダメこれダメ」言わないとすぐプッシュ、ダメになると思います。

——八〇年代のところでは、劇場費は俺たちが払うっていう感覚でやってたでしょう。こっちからもうひとつ年代が下がると、ほとんど劇場費を払ったことがないって演出家ばかりなんです、いま。昔はそのあたりの情熱はいろいろな面にあった気がします。

演劇は社会の中のどこに必要なのか、と 社会に伝わらないといけない

【ペーター・ゲスナー】

鴻上 ■ ぼく自身途中からやり方を変えたというか、結局、助成金をもらわなくても文化庁の予算ってのは毎年あるわけで。それはぼくらが使わないからって介護保険やほかのところに回るんじゃないかと、今度は余計な道路やダムや河口堰を作らせてしまうと考えると、単純に文化に金を使うのは正当な権利なんだって声高に言っていないといけない。演出家が大学の先生や講師になると年に150万もろう、実に微妙なところにいる。ぼくらが二〇代とか三〇代とかのころは自分で稼がないとゼロだったわけで大学の講師なんて職業があるとは思わなかった。そのハングリーさというか。ぼくは一概に助成金をもらうのは悪いこととは思わないし、大学の講師として生活をちゃんと支えていくのは悪いこととは思わないんだけど、あれ？ どうだろうな（笑）。

——八〇年代のニューアンスは、とにかく芝居芝居にこだわっていた部分はあったから、それがいまはだいぶ違ってきて、ひとつには演出家自体がそういう状態にある。ゲスナー ■ 思うのは、いまの時代、平田オリザさんの動き方とかも見たら、「演劇は社会の中のどこに必要なのか、と社会に伝わらないといけない」みたいな。鴻上 ■ 寺山修司さんが国費で援助をもらって海外公演したときに、マスコミの一部が「普段反体制を言っているやつらが国から金をもらうなんて恥ずかしいのか」という論陣を張って、その当時僕は一緒に恥ずかしいなど思ったんだけど、よくよく考えたら反体制であろうが体制側であろうが国民の義務として税金を払っていてそこから国の文化行政の援助を受けるというのは間違いなく国民の権利なわけで、それを昔は思想信条とごちゃ混ぜで考えて。道義的にかかアーティストのプライドの

部分で助成金をどうのこうのと議論するのは素朴すぎる議論だつていう気がすごくするのね。平田オリザ氏の展開というのは僕ら演劇人に対して突きつけられた刃というか。「あなたはもうするんですか」といろいろなことを考えるきっかけを与えてくれたんだと。

ゲスナー ■ バブルの時代の後で、国の中でどこでもすごいっぱい文化の建物造って、でもその建物カラですね。中に専門家が誰もいない。信じられないです、この状況は。それがある意味で、専門家として「ハイジャック



ク」しようという考え方で、いっぱいお金がなくてもできるシステム、作りたかったです。せんがわ劇場でこれはモデルとしてやって、じゃあぜんぜん違う街でもたとえば年3回の芝居作って、地域にフィットするプログラム見つけて、2000万円で1年間のプランニングできないわけじゃない。それは、日本でいろんなところでやるべきです。日本でそういうやり方するの、いままで誰もがんばってないんです。これはもしかすると、いまの50歳60歳の人たちの目的というか、やらないといけないことではないですか。

演出家と劇場 対談：鴻上尚史 × ペーター・ゲスナー

鴻上 ■ だからそれはですよ、ゲスナーさんがもう少し戦略的にたくましくすればですよ、せんがわ劇場はちゃんと後釜を残して、去っていくんじゃないの。平田オリザ氏がやっていることってそういうことだと思っただ。

劇場と演出家と劇団 その理想的な関係

鴻上 ■ あまりにもインテリの若手演出家が大学の非常勤講師で小金稼いでますつていう現状が増えてくるとまずね、俳優側から文句出てくると思うんですよ。つまり、お前はいいよ、と。お前は三〇代になって、そこそこシンポジウムでしゃべれる人間になってね大学の講師つて道があるかもしれないけど、俺たちはどうすんだよつていう。俺たちは踏み台じゃねえんだからつていう。で、ちよつと前までは、劇団を自分が有名になるための踏み台として入る俳優が多かったんですね。だけど、ここは単なる踏み台、ステップだと思つて芝居をやらせると虚しくて、人間はそんなに強くないので、そういう虚しい人間関係イヤだつてみんな思っだして、事務所にもちゃんと入つてるんだけど劇団もちゃんとやりたいつて連中が増えてきたんだと思うんですよ。こつから先、もつかい肉食系になるのか、ツイッターとフェイスブックでますます拡散したプロデュース集合体になるのかつていう。どつちかなつて。

ゲスナー ■ 演劇の世界で王様はじつは役者じゃないですか。でも現実的にはそうじゃないですね。日本の中で、王様はプロデューサーじゃないかと感じているんですよ。ぜんぶプロデューサーが決めている。プロデューサーに見てもらわないといけない、聞かないといけない。演出家として役者と関係を作りたいと思つたら、その前にまず役者はプロデューサーの方にごますりをやつたりで、ぜんぜん普通の関係を作れない。

鴻上 ■ そうねえ。とくにそれがいっぱい興行するプロ

劇場をね、2年前から押さえなきゃいけないってのやめてくんねえか

【鴻上尚史】

デューサーだと、俳優はまず先にプロデューサーの方に目が行くだろうね。ヨーロッパの演劇だって、キャメロン・マッキントッシュじゃないけど、プロデューサーが帝王じゃないの？

ゲスナー ■ドイツはちよつと違うね。理想的には役者ですけど王様は演出家ですね。でも公立劇場の中で役者も毎月お金もらっているから、さっきのような虚しさ、このさきどうなるのかみたいにならなっていない。でもたぶんイギリスとか、あなたの言うとおり。プロデューサーが帝王。日本だけじゃないのはわかっていますけど。

いま演出家として向かっていきたいこと

鴻上 ■第三舞台を解散した理由は、いつもわかってくれたらいいんだけど、演出家としての言葉がやせる役者とかばかりやっていると演出家としての言葉がやせる気がして。まったく届かない人とやるのが自分を育ててくれると思ったので、これからはいろんな人たちと芝居をやっていくことを思っていますね。【KOKAMI@network】と「虚構の劇団」も。根っからの教師体質ではあるんで、ちゃんとい俳優を育てたいなってのがあって。そのためにはプロデューサー公演だけじゃなくて持続的にやってかなきゃいけないところがあるんでやってるんだけど。でもね、この際だから演出者協会のみんなにも言いたいんだけど、劇場をね、2年前から押さえなきゃいけないってのはやめてくんねえかって（笑）。もうねー。

ゲスナー ■自分の劇場を持つとか（笑）。

鴻上 ■持てるかーい！ そんなの解決にならないんだけど。イギリスでね、8月にぼくの『ハルシオン・デイズ』

やらないかって知らせが来たのが今年の1月だったわけ。つまりはほぼ半年だったわけですよ。今年の8月は無理だから来年にしてくれませんかかって言ったら、その芸術監督は「そんな先のことはわからない」と。だいたい半年のチームでイギリスの劇場界は動いているのだから、それはすごいことだと思っただけ。なんだから、それと向こうはロングランがあるんで当たったら続けしダメだったら終わるんで、半年以上、1年向こうは決められないっていう具体的な事情があるんだけど。せめて日本も1年以内で劇場が予約できるようにしてくれないと。2年以上先の現代演劇のシノプシスなんて書けるかいっ！ ていう。なにが起こるかわからないんだから、せめて半年とか1年弱前にしてくれないと。劇団だとそれができる。2年前じゃなくて、公演の稽古初日に台本がちゃんとあればいい。そういうシステムが、僕が劇団を手放さない理由っていうか。ひとつは作家としてタイムラグなく作品を書けるってことと、あとは若いやつらと役者の成長をちゃんと目指せさせられる。

ゲスナー ■もしかすると自分の安全のために2年も先の作品に頼る人たちが反対しているかもしれない（笑）。

鴻上 ■でも2年先なんて言われても困るでしょ？

ゲスナー ■私はイヤだよ。もしかすると演劇嫌いになるかもしれない（笑）。

鴻上 ■それこそ、プロデューサーさんなんですよ。プロデューサーがいい劇場を押さえ始めて前倒しになっていって、結局2年先までなっちゃったと思うんだよ。せめて1年、演出者協会と約束してね、プロデューサー側に圧力かけたらさういふん事態は変わるんだけどなあ。有名な俳優さんを呼んで大きい公演をやろうとすると、

演出家と劇場 対談：鴻上尚史氏 × ペーター・ゲスナー

ペーター・ゲスナー Peter Goessner

1962年旧東ドイツライプツィヒ生まれ。国立ベルリン俳優学校エルンスト・ブッシュで学び、ハシのターリア劇場で4年間演出・俳優を勤める。ライプツィヒ大学で演劇学修士取得。93年東ドイツ、北が州市でうすめ劇場を旗揚げ。00年第一回利演家コンクールで最優秀演出家賞受賞。07～10年度調布市せんがわ劇場芸術監督。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻准教授。

鴻上尚史（作家・演出家）

愛媛県生まれ。早稲田大学法学部出身。1981年に劇団「第三舞台」を結成し、作・演出を手がける。舞台公演のほか、エッセイ、ラジオ、パブリシティ、テレビの司会、映画監督など幅広く活動。現在は「KOKAMI@network」と「虚構の劇団」での作・演出が活動の中心。2011年11月に「第三舞台」封印解除＆解散公演を行う。（11/26～紀伊國屋ホールほか）



やっぱ2年先くらいからスターは埋まっていくんだけど、2年先の現代演劇なんか書けるはずがないっ、と作家としての鴻上が呻いて、その話はナシになっていく。ゲスナー ■古臭い芝居しかなくなっていくかもしれない。鴻上 ■そう。するとうなっていくかという、翻訳物だった、時代劇だったり、2年先に押さえられる種類のものしかなくなってくる。演劇って「いま」を表すのが仕事なのにいまの作品が書けない。時代劇とかファンタジーとか翻訳物しかない、大きな興業として現代演劇がないってのはまずいと思うんだよ。昭和の設定とかチャンバラとかしか無いってのはさ。

【了】

国際演劇交流セミナー2011報告

ロシア特集

演出家と美術家によるワークショップで探る
美術と演技の関連性

(報告) 森井睦

チェーホフの「かもめ」のいくつかのシーンを
取り上げてワークショップがおこなわれた。ま
ず最初に、それぞれのシーンの時代背景や、登
場する人物たちとの人間関係、背景などが説明さ
れたあと、それぞれのシーンに対してオーソドッ
クスにシーンが創りあげられ、その上で、それ
ぞれの俳優たちの演じた演技に対していろいろ
な注意点が指摘されていた。次に、台本に指
定されている設定をもとに創りあげられた演
技に対して、台本に指定されている設定とは
まったく違う様々な設定を決めて同じ演技をす
る。例えば、氷の上とか、熱砂の上とか、森
の中とか、またスケートボードに乗りながらと
か、ブランコに揺られながらとか、非常に不安
定の棒の上とかである。そのとき、本来、台
本上の設定で演じられていた演技が、設定を変
えられることでどのように変化し、なおかつリ
アリティーを持ち得るか講師を含め参加者全員
で探っていった。そのようなワークショップが、
両会場とも参加した俳優たちによって演じられ
ていった。

このように、いままでの単なるワークショップ
とは違う角度から、つまり、美術が変わること
によって、同じセリフであっても、演技の質が、
演技のリアリティーの有りがどのように変化す

6月22日～6月24日(松本・ピカデリーホール)
6月26日～6月29日(東京・芸能花伝舎)
講師 アレクセイ・ベセコフ(演出家、ロシア
国立ミヌシンスクドラマ劇場芸術監督)
ステラ・ナ・ラマノワ(美術家) オ
リガ・スメホワ(女優)

通訳 安達紀子

担当 森井睦、長谷川直輝

参加者 松本WS18人(男12・女6) レクチュ
ア9人(男12・女7) 東京WS20人(男
9・女11) シンポジウム27人(男15・
女12)

るのかを考えた。

試みとしては面白い試みだったと思っている
が、現実的には、参加された俳優さんたちのキャ
リアの違い、表現レベルが様々だということ、
講師の人たちとのコミュニケーション、理解度が
どう折り合っているのか、いけたのか、やは
り今後の課題として残ったのではないかと思
う。今後の課題として残るものも多かったと思
うが、美術と演技、照明と演技、音楽と演技など
現代におけるリアリティーのある演技はどのよう
にして成り立つかを考えるきっかけになったの
ではないかと思った。



国際演劇交流セミナー2011 報告

国際演劇交流セミナー2011報告

スイス特集

演出家のための集中ブレインストーミング

(報告) 田中孝弥

国際部で今まで企画されてきた国際演劇交流
事業は、ワークショップやレクチャーといった形
式「教える」教えられる」という垂直関係での交
流が主でした。今回のスイス特集では、招聘講師
(エリック・デヴァンテリー氏)にも一人の参加
者としてブレインストーミングに加わってもらい、
「学び合い、深め合う」水平方向での交流を試み
ました。

このブレインストーミングでは、演出家同士が
集い、一つのテキスト(『ピーダーマンと放火犯人』
作: マックス・フリッシュ)を題材に、互いにそ
の作品の上演に向けての演出プランを1日目にブ
レインテーションしました。そして、疑問や問題
点を提起し、解決策を見出し、また新たに生まれ
る課題について検討していきました。

ブレインストーミングで話し合われたテーマに
ついて、少し紹介します。
*メタファー(隠喩)として用いられている「火」
や「放火犯人」とは一体何を指しているのか?
*作中に登場する「コーラスの位置づけ」について
*物語の結末では、町中が火の海と化すが、ピー
ダーマンは「放火犯人」を黙認していたのだから
か? ピーターマンは本当に何もしなかったのだ
ろうか?

*少し哲学的な観点から、「何もしない」とは一

8月15日～8月21日 (大阪・スタジオ315)
8月22日～8月28日 (東京・芸能花伝舎/新宿
村スタジオ)

講師 エリック・デヴァンテリー
通訳 小野紗也香、トール・グレイベ(大阪)
三ツ石祐子、寺尾恵仁(東京)

担当 田中孝弥、中野志朗

参加者 合計134人(男88人・女46人) 大阪受講
者合計7人(男5・女2) 延べ49人 大阪聴
講者合計16人(男10・女6) 東京受講者合
計8人(男5・女3) 延べ56人 東京聴講者
合計13人(男8・女5)

体どういことなのか? また「何かを創造する」
とはどういうことなのか?

大阪と東京で各一週間ずつ行われたブレイン
ストーミングでは、多くのテーマについて、演出家
同士が互いに言葉を尽くし、「新たな視点」の発
見や「演出という作業」についての再認識を得る
ことが出来ました。

その他、ゲストとして衣裳デザイナーや舞台美
術家を招き、演出家と作品プランを練り上げてい
く際の留意事項についても話し合う機会を持ちま
した。

6日間のブレインストーミングを経て、最終
日は一般公開で、新たな演出プランを提示し、そ
の後の座談会
では、「演出言
語を検証する」
というテーマの
下、演出家が
用いる言葉の
可能性につい
て広く話し合
いがなされま
した。



演劇大学 in 廿日市

(報告Ⅱ西垣耕造)

日時 2011年3月18日～21日
会場 はつかいち文化ホールさくらびあ
講師 高部幸男、福正大輔、西垣耕造、和田喜夫、
宮田慶子、流山児祥
担当 (財)廿日市市文化スポーツ振興事業団

広島県廿日市市において演劇大学が、2011年3月18日(金)～21日(日)に亘って、(財)廿日市市文化スポーツ振興事業団との共催で行われた。会場は、はつかいち文化ホールさくらびあ。講師陣は、高部幸男、福正大輔、和田喜夫、宮田慶子、流山児祥、西垣耕造。さくらびああスタッフの皆さんの尽力により、各コースほぼ満員の、活気溢れるワークショップが展開された。

(俳優・演出家コース)では、中学生・高校生の瑞々しい感覚が、身体の動きや言葉となって表われ、大学生・社会人のクラスでは、和形式ダラダラ体操や、戯曲のリーディングを通して人間について、社会について考察する空間が生まれた。【イキイキ演劇コース】では、50歳以上の人生経験者の皆さんが、その想いの丈を戯曲につづけ、圧巻の公開通し稽古を観せてくれました!【体験・教養コース】は玉手箱の様な時間。子ども達の純粋な、人間に対する興味から創り出された遊戯空間は、正に演劇の源泉であった。演出入門クラスでは、身体全体で、言葉を受け止めようとする姿が存在した。そして【実践コース】では、最後にステージを使っ

ての舞台発表。短い稽古ながら、集団の動きのダイナミズムを見事に観せてくれた。最後のシンプोजウムでも、広島演劇状況についての今そして未来について、熱い想いが論じられた。

演劇大学inはつかいちには、廿日市市文化スポーツ振興事業団のスタッフの熱い思いによって支えられた。それは、演劇を愛する人達を増やしたい!という願いであり、この4日間生まれた人間関係は、必ず、演劇によって地域を耕す力となり得るだろう。それは、初日の交流会や、楽日のお疲れ様会での、熱い議論からも感じられた。廿日市の皆さんとは再開を約束した。きつと現実のものとなる事を確信している。



演劇大学 in 下関

(報告Ⅱ篠崎光正、赤松美花、金森健一)

2011年7月7日～10日 下関市民会館
講師 ふじたあさや、福田善之、ベーター・ゲスナー、
和田喜夫、篠崎光正
パネリスト 古川薫、武部忠夫、藤田典子、加藤孝明
担当 演劇大学inしものせき実行委員会・演劇大学サ
ポートの会
共催 (財)下関市文化振興財団 後援 下関市教育
委員会 下関市文化連合 山口新聞社

下関の演劇関係者が一堂に会する貴重な機会となりました。どんな成果が上がったのか、実行委員会からの報告。

◇ 昨年に続き、今年も「演劇大学inしものせき」が下関市民会館で開催され、のべ230名が参加、昨年以上の参加者となりました。

◇ 今回は、発表会をメインに行い、「関門舞台人によるパフォーミング」では、地元の下関・俳優・ダンサー・ミュージシャンが和田喜夫氏とタッグを組んで、音楽とダンスと演劇のコラボレーションする舞台を創りました。「戯曲リーディング」は、のちに福田氏が脚本化したいと言われるほどの出来栄となりました。

初心者の方も経験者も楽しめる「日本語のせりふ」ではふじた氏が、金子みすずや平家物語を読み、篠崎光正氏の「シノザキシステムのワークショップ」、ゲスナー氏の「シアターゲーム」は、下関市内外からの高校から定員をオーバーするほどの参加となり、今後、県内の高校演劇のレベルアップにつながっていくことと思えます。初心者も経験者も学生も、それぞれに合ったいろいろな講座を受講できました。(劇団新波 赤松美花)

◇ 第1回目の演劇大学で大勢の高校生を集め、また今回も新記録を塗り替えた金森先生の報告。

◇ よし、みんなで演劇大学に入ろう。これが市内の高校演劇の会議での結論です。県内の高校や演劇部OBにもメールを送りました。これは参加しよう!と広島から駆けつけたOBもいます。大会の4日間でのべ200人近くが参加しました。講座の休憩時間に、多くの生徒、顧問OBから、プロの先生方から本格的なトレーニングを受けられて、最高にしあわせだ、と声をかけられました。今回の演劇大学を通して、下関の演劇を通じて仲間をつなぐの強さを感じると共に、このつながりがさらに深まったことを実感しました。(金森健一)



演出家・俳優養成セミナー2011報告

演劇大学 in 愛媛

エンゲキで遊ぶ！
（報告）鈴木美恵子

2011年7月15日～18日
会場 ひめぎんホール
講師 松本祐子、村井健、坂手洋一、西垣耕造
担当 西沢栄治、和田喜夫
共催 鈴木美恵子
愛媛県文化振興財団

演劇大学も三年目の熱い夏を終えました。「開かれた演劇こそが演劇を豊かにし、新しい展開を促す」というのが、私がこの三年間で学んだことでした。

2009年の初回、蓋を開けてみると地元演劇人の参加は少なく、参加してくれたのは演劇経験の少ない一般の方々が殆どでした。当初、私の目論みは、地域演劇のステップアップを願っての演劇大学招致でしたから戸惑いました。日本の演劇界の第一線で活躍する方たちに講師をお願いしたのに、受講者の大方が初心者で、講師と受講者とうまく噛みあっていきのたろうか、不安で一杯でした。ところが講師の方々は、受講者の経験の有無に関係なく一人ひとりに本気で真剣に向き合っていました。それに触発された受講者の澁刺とした楽しそうな顔に触れたとき、この演劇大学は単に地元の既存の「演劇人」のためにあるのではなく、今まで演劇に無縁だった人たちを包み込んだ地域の演劇振興のためにあるのだと気付かされたのです。

演劇が人の営みを描くものとするれば、演劇に関心を持つ人が沢山いるのは当たり前のことです。一寸したきっかけや出会いで、見たり、演

じたり、創造というものに関わってみようかと演劇大学に顔を出して戴いたのは、幸せなことでした。

何年か後の松山の演劇地図が楽しみです。今のそれとは大きく変わっていることでしょう。松山からの創造発信も、そう遠いことではないものと確信しています。演劇の一極集中は、ここ当分は続くでしょうが、私たちは取り敢えずこの四国の地で、演劇の地産地消を射程にのれた活動をこつこつ続けることで、日本演出者協会の演劇大学に報いたいと思います。

三年間、学ばせていただきありがとうございました。本当に有難うございました。



演出家・俳優養成セミナー2011報告

演劇大学 in 福岡

（報告）山田恵理香

2011年8月11日～14日
会場 パビオビールーム
講師 流山昇祥、柴幸男、青井陽治、小林七緒
担当 和田喜夫、瓜生正美
共催 (財)福岡市文化芸術振興財団、福岡市協賛 福岡地区舞台芸術運営協同組合
協力 福岡地区舞台芸術運営協同組合
企画制作 日本演出者協会福岡ブロック
アートマネージメントセンター福岡

昨年度から継続しての開催となりました。今年度より福岡ブロックも正式に活動ができるようになり、協会員の中から有志による演劇大学執行部を組織だてて企画と運営を行いました。昨年は制作団体の力に頼りきりで協会員を主体とした運営が思うようにできなかった為、今年度は「協会員の手で運営をする事」を我々の目標として取り組みました。その為、昨年をプレ開催とし、今年度を初開催と位置づけました。このような地元演出者が横の繋がりが主体性を持つて運営するような企画は福岡では珍しく、このこと自体に意義を感じる為、今後も継続的に開催をすることを目指していきます。さて、講座の内容は「講師と地元演出者とがタッグを組んで最終日の発表会に向けた作品創作」を行いました。戯曲は地元演出者が希望した作品、自作・既製問わず）に取り組みました。4人の地元演出者が選出され、中には熊本県から参加した演出者もいました。福岡市には九州の玄関口、アジアの玄関口としての役割があると自負しています。これからの九州一円から広く演出者を受け入れたいと考えています。公募した俳優参加者も10代～60代まで幅広い世代で経験も問わず受け入れられました。定員をはるかに超える参

加希望がありこの企画に対する市民の関心の高さを感じることが出来ました。福岡で活動する殆どの演出者も俳優も同世代で創る現場が多い為、年齢に幅がある創作現場体験できる機会は貴重です。また、演出者は普段の稽古場での共通言語と違う、未経験者も含めた新たな出会いの中で創作に必要な言語を洗いなおす必要性を強く感じている様子が印象的でした。どのチームも演出者と講師が作品を通して、「演出者とはなにか?」「創作とはなにか?」を論じ体験できる場となっていたことで、自身の現場へ持ち帰るものが多くあったようです。また、シンポジウムも「演劇の音」というテーマで開催し、講師陣の音に対する貴重な話を聞くことができました。



岐阜県中津川市

2011 演劇 CAMP in 中津川

おいでん地歌舞伎の里、中津川

2011年 9月16日(金)～19日(月・祝)

会場
常盤座
明治座
福岡ふれあい文化センター
常盤神社
にぎわい広場(アピタ前)

講座・セミナー

演出家・俳優養成セミナー・「東海道四谷怪談」

9/16(金)～9/19(月・祝) 福岡ふれあい文化センター(公演・常盤座)

講師 流山児祥・鹿目由紀

「日本舞踊のしぐさ」 9/17(土) 常盤座 講師=竹内菊

「四畳半!～山の手事情社」

9/17(土)～9/19(月・祝) 福岡ふれあい文化センター

講師=浦 弘毅

地歌舞伎・恵那文楽体験 9/18(日) 常盤座



白浪五人男



十二人の怒れる男



トワワイルスタ



イベント

オープニングシアター 9/16(金)

岐阜自慢ジカブキプロジェクト『青砥稿花紅彩画～白波五人男』/朗読劇『虫たちの日』/床絵美『アイヌ歌謡』/フォークグループ『土着民』/小林裕尚ジャズバンド『どんぼんぼろひ』

駅前シアター 9/17(土)「駅前シアターパレード」

PLE-MIX(クラウンファミリープレジャーB)『コメディミニシアター』/床絵美『アイヌ歌謡』/岐阜自慢ジカブキプロジェクト『青砥稿花紅彩画～白波五人男』/小林裕尚ジャズバンド『どんぼんぼろひ』/パフォーマンス『巨大人形ダンス』

常盤座ゆうやみシアター 9/17(土)

恵那文楽保存会『三番叟』/日本演出者協会東京選抜リーディング上演『仮名手本忠臣蔵』/中村津多七の地歌舞伎細見『仮名手本忠臣蔵七段目』/オイスターズ公演『お蔵入り』

明治座おひるまシアター 9/18(日)

2011 演劇 CAMP in 中津川文化大使 五大路子語り『加子母の昔話』/岐阜自慢ジカブキプロジェクト『青砥稿花紅彩画～白波五人男』/PLE-MIX(クラウンファミリープレジャーB)『コメディミニシアター』/劇団そらのゆめ『ゆめたまご』/コーラス『加子母の歌』

常盤座ゆうやみシアター 9/18(日)

SENDAI 座☆プロジェクト(仙台市)『十二人の怒れる男』/日本演出者協会東海選抜朗読劇『やり取り～母と娘』/中津川市民選抜朗読劇『それゆけ安全マン!?～レントゲン・チェルノブイリ・フクシマ～』

ファイナルシアター 9/19(月・祝)

2011 演劇 CAMP in 中津川文化大使 五大路子朗読『セメント樽の中の手紙』/キッズと作る野外劇発表会・常盤神社『トワワイルスタ』/丸プロ・プロデュース蛭川出たがり一座『七福神様! 豊年踊りでございます』/演出家・俳優養成セミナー『東海道四谷怪談』/洪明花『扇の舞』

常盤座で暮らして

木村 繁 (2011演劇CAMPin中津川実行委員長)

私は開催中、ずっと常盤座の舞台に泊りこんでしまった。朝、客席の板戸を開けたときの彼岸花の紅の美しいこと。時間で区切られない劇場がこの国にあるのだ。

三回目を迎えた演劇CAMPin中津川、私たちはここでCAMPinをするからにはと、地歌舞伎との交流プログラムを大幅に増やした。地産地消にも似たジカブキという響きは心地よい。振付師中村津多七師の指導で現代劇の女優たちが白浪五人男に挑戦するというのがその一つ。日頃戯曲と演出家のプランを手掛かりに役作りをする俳優にとつて、一人の師匠のからだの中に、戯曲も演出も演技技術も下座音楽も化粧や着付け、大道具の飾りまでも、およそすべての要素が詰まっているという伝統芸能の有り方にあらためて驚かざるを得なかった。また日本演出者協会東京選抜は仮名手本忠臣蔵浄瑠璃全段リーディングに挑戦(篠本賢一演出)した。恵那文楽の古風な三番叟、津多七師匠の仮名手本忠臣蔵七段目を題材にしたおかる、勘平の化粧と袴の実演。あるいは演出家・俳優養成セミナー『四谷怪談』の歌舞伎台本を基にした試み(流山兎祥、鹿目由紀指導)、オイスターズの忠臣蔵に想を得た『おくらいり』(平塚直隆演出)、歌舞伎をテキストにした山の手事情社の浦弘毅氏のセミナー、竹内菊師の日本舞踊のしぐさのセミナーなど、常盤座を舞台に繰り広げられる贅沢でゆったりした時間であった。

SENDER座の『十二人の怒れる男』上演に際して当初実行委員会の意見は二分していた。震災後初めて作った舞台を是非中津川へと言う思いと、花道、棧敷のある歌舞伎劇場の客席にオープンステージを作ることへの抵抗である。結果、棧敷での裁判劇は役者諸氏のテンションも上がり、二階棧敷は傍聴席となり大成功であった。靴を檜の劇場で使用させてくれた常盤座の理解に感謝、まさに伝統と現代のせめぎ合いであったと思う。

地元の芸能では丸プロ・プロデュース、蛭川出たがり一座の『七福神様! 豊年踊り! ございます!』が出色の出来だった。田起こし

から稲刈り脱穀までを唐傘、手拭、扇子などを使っておもしろおかしく見せて行く、田楽から波及した民俗芸能である。蛭川に伝わるそれを、地歌舞伎保存会、出たがり一座と称するあやしいメンバーまで一緒にあって、民俗芸能を立派に継承しながらも色気たっぷりな、エネルギーあふれるエンタテインメントに仕立てた。明治座での加子母獅子芝居は獅子頭が主役になって立役、女形を歌舞伎で演ずるというめずらしいもので参加者の話題になった。

今年から演劇CAMPin中津川文化大使に就任した女優、五大陸子氏がそのお仲間とともに明治座で語り『加子母の民話』、常盤座で朗読『セメント樽の中の手紙』と中津川を舞台にした新作を上演してくれた。『セメント樽の中の手紙』はきりっとしたいさぎよい朗読で観客の心に深くその言葉が刻まれた。親善のためだけではなく文化大使の名にふさわしいかわりをしてくれた五大氏に感謝したい。今年の中津川市のほかに岐阜自慢ジカブキプロジェクトが共催中津川商工会議所の協賛をいただき、白浪五人男の自主製作や駅前パレード、駅前シアターなど新しい試みに着手した。ご来場の皆さん応援してくれた各団体、中津川、東京、名古屋の実行委員の皆さんに感謝する。

芝居の本質を体験
今井夢規

隣に神様がいた。
僕は、常盤座二階正面席で舞台を眺めていた。

初日、時間は夜。常盤座の客席窓は空いていて、蒸し暑い風がゆっくり入ってくる。時折通る車のライトが観客を照らし、虫の声と舞台のエネルギーは、神様が隣にいると感じさせてくれる。演劇の本質を体験することができると四日間だった。

常盤座は昔の芝居小屋で、自然に敷居の高いイメージが伴う劇場だったが、日本演出者協会和田理事長の「劇場を集会所に!」の意を皆に簡単に教えてくれる。常盤座には、花道をこれでもかと気軽に使う演出家達、更には花道が客席にもなり、交流会においてはそこでお酒を飲む参加者達。花道を音を立てながら歩いていく地元のおばちゃんたちの姿はもはや痛快ですらあった。

観劇の際には地元の方が作った辛いカレーとうどんに舌鼓を打つことが出来る。汗をかきながら舞台に目をこらす観客の多いこと。ただ、それすらも皆たのしそであった。

終演後には、関係者が線香花火をお客様に振る舞い、花火の大きさを競う観客、地元のボランティアの方々、参加者で又常盤座は賑わう。しばらくして、夜が更け、入口の地歌舞伎の人形二体だけ明かりが灯り、この芝居小屋を見守っている。又、ここに来たい。人と集まりたい。そう思わせてくれた中津川だった。



加子母の民話

東日本大震災被災地の舞台芸術家を支援する事業 フェニックス・プロジェクト 震災被災地の心に灯りをともそう！

プロジェクト主旨

フェニックス・プロジェクト（事務局長 菅野直子）

このプロジェクトは、6月、7月、8月と東京の民間劇場／笹塚ファクトリー、二川純吉さんの会場提供を受け、舞台芸術家の活動を支援するための「支援金募集」と、「ともに考え合う場」を作ることを目的としたチャリティーイベントを連続開催するところからスタートしました。

イベントではアーティストの作品発表の他、「被災地からのアーティストレポート」＝被災地の舞台芸術家からの報告、トークディスカッションをプログラムの中心に据え、現地の生の声に耳を傾け、共に何ができるかを考え、交流を図ることを大きな目的としました。このレポートは全部で7回開催され、この場から新たな支援の輪が各地で広がりました。

イベントには協会員をはじめ、ジャンルを越えた様々なアーティスト、舞台スタッフ、学生ボランティアの方のご協力を得て、この2500人の方に「来場頂き、被災地各地の舞台芸術家団体および、舞台芸術家の支援企画に支援金を送ることができました。今後も、首都圏だけでなく、全国各地の皆さんと連携しながら当面「2年」を目標に継続する予定です。

フェニックス・プロジェクト、その第一歩

実行委員長 大西一郎

未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、主に東北から関東全域に至るまで、地震・津波災害はもちろん、福島原発原子力災害まで、数多くの人と心に重い痛みをもたらしました。そしてそれは未だに終息の気配も見えず、我々の目の前には長く遠く先の見えない道が横たわるばかりです。

私も数度岩手県宮古市の沿岸部に足を運ぶ機会がありましたが、その失われた風景を前に見つけられる言葉など何一つありませんでした。そして、日本演出者協会も北沢で予定しておりました創立50周年記念の会が、まさに準備佳境の最中に中止が決定したように、自粛ムードや、全くの嘘っぱちだった東電の無計画停電により発生した舞台芸術界における、2次被害3次被害も各方面で甚大なものとなりました。

そんな中で、演出者協会内でも早くから、一体被災地に對してどのようなことが出来るのかが議論されておりまして、そこに笹塚ファクトリーさんから被災地支援のためなら3ヶ月間連続で会場無償提供の有難いお申し出をいただき、フェニックス・プロジェクトはその第一歩を踏み出

すこととなりました。この目的は、被災地にいる我々の仲間である舞台芸術家たちを支援するというものの特化したものです。

実被害もあります。心の傷の問題もあります。作品創りをするしないし出来ない出来ない問題もあります。実際に作品制作に立ち上がるうにも、劇場や稽古場も被災し使用できなくなったりするなどの、現実的な問題もあります。仕事を失い、資金の問題なども立ちはかっています。とても書ききれないほどの多くの痛みと傷と苦しみとそこにはあります。そしてそれは今日もまだ現在進行している問題です。その我々の仲間達を支援するために、具体的な事業目標としては大きく2点を設定しました。

1、劇場等での支援企画で得られた収益金を被災地の舞台芸術家たちの活動支援金として送る。
2、実際に被災地の舞台芸術家たちを招いて、報道などでは決して表に出ない、実際に被災地では何が起っているのか、本当に必要なものは何なのかという問題を自身の言葉でお話していただく機会を作る。そして、問題を共有し、本当に必要な支援へと繋げる。

事務局長報告にあるように、おかげさまで3ヶ月の笹塚シリーズは無事に終了し、多くの心、そして支援金も集まりました。皆様には本当に感謝するばかりです。そしてその後も、福島での報告会や横浜でPAW YOKO HAMAが開催した東北ミドル等、フェニックス・プロジェクトの関連する企画は進行しております。

また、今回中心核となっているのは若手の協会員達で彼らが自らの発想で様々な事業展開を構想実現していただくことにも大変に興味があると思っております。

まだまだささやかな第一歩です。そして私達はこれを続けてゆかなければいけません。1年後、2年後も同じ熱量をもって我々の仲間達を支援してゆかなければなりません。

どうぞ今後とも皆様方により一層のご支援をお願いすると共に、より多くの皆様に関わっていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

参加者の声

坂田裕一（岩手県演劇協会 会長）

「ホールが無くて芝居はできない」

若手の沿岸のホールは壊滅的な被害を受けた。陸前高田市、釜石市、宮古市、再建の目途は立たない。50年以上の歴史を有する宮古市の劇研麦の会は、装置小屋が流され、大道具・小道具・衣装・台本全て失った。常打ち小屋だった宮古市文化会館も被災した。震災から数ヶ月後、劇団員が集まった。期せずして「芝居をやる」という声が上がった。11月の定期公演を敢行する。

ホールが出来る前から芝居はあった。好きだからやるのだ。大げさに考えることはない。今ある姿でありのまま芝居をやる。釜石の劇団・青い海は、辛うじて被害を免れたホテルの宴会場で芝居をやる。麦の会は幼稚園の多目的ホールで上演する。

そうだ、我々は知らず知らずの内に、公立ホールに依存していた。芝居を行うところが劇場である。我らはあらゆる空間を劇場としなければならぬ。

6月、被災地の一人としてプロジェクトのトークに呼ばれた時、実行委員の広田淳一さんから「被災地の思いは被災者が作品に」と勧められ、初めての創作劇を書き始めた。7月にはトークに参加した同郷の青木淑子さんの計らいでチェルノブイリの詩「リンガフランカ」を読むことになった。美しく、心打たれる詩に出会えた。8月、出来上がった朗読劇を手に劇団始まって以来の東京公演、笹塚へ。『愛しき福島へ』原発から五〇キロの町。団員一人ひとりが県民みんなの思いを自分に重ねて心を含めた。実行委員やスタッフの顔に汗して舞台づくりをしてくれた。震災後何も手につかないと怯えていた団員のひとりも元氣を取り戻し、来年の自主公演の台本探しの話を始めた。もう大丈夫だ。

9月、青木さんと組んで「フェニックス・プロジェクト in 郡山」を企画。首都圏の演劇人が被災地のために動いてくれたことを報告。上演後、意見交換の時間を設けた。原発事故で避難を余儀なくされて住民となった浜の人たちと、放射線量に怯えながら住み続けている市民がそれぞれの心境を語る場を作りたい。互いを知り、互いの文化をどう支えていくかが私たちのこれからの活動の一つになるに違いない。やらねばならないことがいくつもあ。やりたことは山ほどある。11月には去年から温めていた県内初の演劇大学を4日間開催する。「短期間なら福島は安全ですよ」と県外の人たちを誘う悲しさは例えようもない。

町聡子（福島県郡山市）

最初の回に招かれた6月、私はなんだかトッチラカッタ気持ちで取る物も取りあえず、震災後初めて新幹線に乗り東京へと向かい、いったいわれれば何を話せばよいのだろう……と不安でしたが、さて笹塚へ来てみれば、ここもなんだかトッチラカッいて、みんな取る物も取りあえず、それでも今この企画をやらすにはいられないという舞台人の熱い思いにうち満ちていて、「ああ私たちはひとりじゃないんだ」と少し安心した次第。本当にたっくさんのご支

伊藤み弥

（仙台）ファクトリーバイバルコネクション東北事務局

最初の回に招かれた6月、私はなんだかトッチラカッタ気持ちで取る物も取りあえず、震災後初めて新幹線に乗り東京へと向かい、いったいわれれば何を話せばよいのだろう……と不安でしたが、さて笹塚へ来てみれば、ここもなんだかトッチラカッいて、みんな取る物も取りあえず、それでも今この企画をやらすにはいられないという舞台人の熱い思いにうち満ちていて、「ああ私たちはひとりじゃないんだ」と少し安心した次第。本当にたっくさんのご支



東日本大震災被災地の舞台芸術家を支援する事業 フェニックス・プロジェクト 震災被災地の心に灯りをともそう!

シアターライブ in 笹塚 会場：笹塚ファクトリー

Vol.1 2011年6月2日(木)～5日(日)

- 2日 朗読劇&トーク「物理学者たち～二幕の喜劇」
3日 『それゆけ安全マン!?～レントゲン・チェルノブイリ・フクシマ～』
4日 Aプログラム 出演＝床絵美／大住裕子、夏の会、舞香、清水良英、
洪明花、小林大輔、The Bambiest
被災地の舞台芸術家トーク1&朗読・交流会 出演＝伊藤み弥・
鈴木拓(仙台)こむろこうじ(盛岡)、町聡子(福島)
朗読出演＝白石かずこ、白石奈緒美
5日 Bプログラム 出演＝藤川和人、江戸糸あやつり人形、渡邊純子、
夏の会
被災地の舞台芸術家トーク2 出演＝和合亮一、伊藤み弥、他
Cプログラム 出演＝日本演出者協会東海ブロック、本多加奈／隆勇
人、巢山賢太郎／タニア・コーク、南谷朝子／大久保かおり、IMO

Vol.2 2011年7月8日(金)～7月10日(日)

- 8日 Aプログラム、ライブペインティング
出演＝小林裕児、齋藤徹、上村なおか
被災地のアーティスト・レポートI
ライブディスカッション「3.11以降の想像力」
出演＝鈴木拓(仙台)、中村剛造(盛岡)、成島秀和(東京)
交流会1
9日 Bプログラム「臨界幻想」一朗読劇
9日 Cプログラム、ダンス・プログラム
出演＝東野祥子、巢山賢太郎／タニア・コーク、川合ロン／佐々
木崇仁／城俊彦
被災地のアーティスト・レポートII「福島で今、考えること」
出演＝大信ペリカン(南相馬市)、貝山武久、丸尾聡、今村圭佑
交流会2 出演＝シアターサーカスカンパニー「チキキ*パークウ」
10日 Dプログラム、短編演劇
詩×劇「つぶやきと叫び～深い森の谷の底で」
リーディング「網膜火傷」
新作朗読劇「まだ、わかんないの」
10日 Eプログラム、落語 出演＝桂歌若
現地アーティスト・レポートIII「定点報告とこれからのクリエイション」
出演＝新田満(岩手)、青木淑子(福島)、なかじょうのぶ(宮城)
交流会3、ミュージック・ライブ・プログラム
出演＝リトルフェニックスバンド、IMO

Vol.3 2011年8月18日(木)～8月21日(日)

- 18日～20日 Aプログラム、朗読劇『石棺 チェルノブイリの黙示録』
20日 Bプログラム東北発・新作朗読劇『愛しき福島へ～原発から50キロのまち～』
被災地のアーティスト・トーク「3.11以降の創作の現場」
出演＝石川裕人(仙台)、黒沼辰巳(福島)、町聡子(福島)
交流会+ミュージック・ライブ!!
ライブ出演＝トダタダン、大方斐紗子
21日 Cプログラム『みんなと雨ふり』、リーディング『カラカラ』
被災地のアーティスト・トーク「定点報告とクリエイションの可能性」
出演＝くらもちひろゆき(盛岡)、大信ペリカン(福島)
笹塚フィナーレ大交流会!!+ミュージック・ライブ
ライブ出演＝リトルフェニックスバンド/他

若手協会員の声

広田淳一(副事務局長)

私は震災発生時、ソウルで仕事をしていました。日本に帰って来たのは4月中旬だったので、震災について未だに実感の湧かない思いがあります。フェニックスに携わって一番良かったのは東北の方々の生の声を聞けたことで、そのことによって震災との距離感が少しだけ掴めたような気がします。そして、多くの東北の演劇人の聡明さ、情熱に直接触れられたのは実に貴重な体験でした。もっと多くの在京演劇人にも観てもらいたかったイベントです。和田理事長が何度もおっしゃっていらっしゃいましたが、継続

援をありがと。ございました。そしてこの企画のおかげで東北と全国の演劇人が新しいつながりを持ってました。それこそが未来へつながる支援になると思っています。これからも、よろしくお願ひします。

することにこそ意味のあるイベントだと思います。今後も政治性や党派性から離れて、せつかく作ったつながりを維持、発展させていくことが出来ればよいと考えています。

深寅芥(事務局)

フェニックスプロジェクトに参加させていただき、本場に光栄でございました。震災直後、和田理事長から「被災地支援プロジェクト」のお話を伺い、個人的に出来る限りの作業をさせていただきました。数々の関係者・出演者の皆様のご協力に深く感謝しております。2011年は競争社会の終焉の年ではないかと強く感じております。これからは、「共存・共生」。そういった人との繋がりがますます大切になっていく時代になりそうです。私自身、そのような事を常に念頭に置きながら、今後も「支援」を継続していきたいと考えております。ありがと。ござい

今井夢視(事務局)

東北に飛ぶ鳥を名前にした三回に及ぶこの復興支援の成功を。そして、「復興」の言葉が消える日が早く来ることを、まず祈らせて頂きます。私が思うに、演出者協会の事業の中でこれほどまでに人を動かしたモノはなかった。それほど多くの人間があそこにはいた。話し合い、知ろうとした。知らなかったといつのまにか声を出していた。知りたくなかったとは聞こえなかった。復興する。東北はきつと復興する。皆が確信した。

「大丈夫、東北から来た方々、東北に行つた方々、そして東北出身の事務局長の菅野直子さんが笑いながら、泣きながら言ってくれた。

——最後に若い言葉で終わらせて頂きたい。私はあの場にいた全員を心から誇りに思う。

シアターライブ vol.1～3の収益金は下記の被災地の芸術家団体、被災地の舞台芸術支援企画に「支援金」として送りました。

◆シアターライブ vol.1

いわて文化支援ネットワーク(東北/岩手県)

Art Revival Connection TOHOKU (ARC>T)(東北/宮城県)

◆シアターライブ vol.2

いわて文化支援ネットワーク(東北/岩手県)

Art Revival Connection TOHOKU (ARC>T)(東北/宮城県)

郡山演劇研究会「ほのお」(東北/福島)

◆シアターライブ vol.3

いわて文化支援ネットワーク(東北/岩手県)

Art Revival Connection TOHOKU (ARC>T)(東北/宮城県)「フェニックス・プロジェクト in こおりやま」(東北/福島/被災地支援企画)

PAW2011「東北・復興 week」(関東/横浜/被災地支援企画)

第2回 日本の近代戯曲研修セミナー in 関西

平澤計七『戦闘か調和か屈伏か』『悪魔』『苦闘』

演出Ⅱ山口浩章 アドバイザーⅡ正木喜勝、菊川徳之助、森本景文

秋田雨雀『骸骨の舞跳』

演出Ⅱ笠井友仁 アドバイザーⅡ正木喜勝、菊川徳之助、森本景文

今回の「日本の近代戯曲研修セミナー in 関西」はプロレタリア演劇の先駆けとして、平澤計七と秋田雨雀という、明治、大正期に活躍した作家を取り上げた。日本演出者協会関西ブロックの公募により、2011年3月26日(土)、27日(日)に行われるリーディング公演の演出家を、平澤計七は山口浩章が、秋田雨雀は笠井友仁が務めることになった。

菊川徳之助氏によるプロレタリア演劇についての勉強会が行われ、その後、それぞれのチームでのリーディング公演に向けての稽古に入った。リーディング上演に向けての稽古から上演後のシンポジウムまで含めて近代戯曲研修セミナーということで、稽古場にも研究者に入ってもらい、無料で公開し、見学者も近代戯曲、近代演劇に関するセミナーに参加できるようにした。平澤計七のチームは、リーディング出演者を公募し、稽古序盤で『工場法』『夢を追う私たちの群れ』など計7本の平澤作品を参加者全員で読み、研究者を交えた話し合いの結果、「平澤計七の作品の様々な要素、魅力を幅広く伝えたい」という思いから、『戦闘か調和か屈伏か』『悪魔』『苦闘』の3本を選出し、リーディング作品として創作した。秋田雨雀のチームは、作品を『骸骨の舞跳』と定め、様々な年代の俳優を募り、稽古後は、お互い感想を言い合い、それぞれの世代で作品や、台詞に対する距離感があることなどを話し合いながらの創作となった。

第5回 日本の近代戯曲研修セミナー in 東京

長谷川伸戯曲を読む！

9月24日(土)『瞼の母』演出・講師Ⅱ御笠ノ忠次 アドバイザーⅡ寺崎裕則

9月25日(日)『刺青奇偶』演出・講師・アドバイザーⅡ福田善之

シンポジウム『長谷川伸—もう一つの近代演劇—』

パネラーⅡ福田善之、御笠ノ忠次、寺崎裕則 司会Ⅱ佐々木治巳

今回で第5回目を迎える日本の近代戯曲研修セミナーでは、長谷川伸戯曲から『瞼の母』『刺青奇偶』を選び、5日程度の研修／稽古を経て、リーディング上演とシンポジウムを行いました。

『瞼の母』は、演出担当の御笠ノ忠次氏を中心に、30歳代の演出家が多く参加しました。アドバイザーの寺崎裕則氏、演出助手の青井陽治氏から長谷川伸の劇世界にある演劇的教養に触れ、先行した上演を参考にしながら、台詞一つ一つ、ト書きの一つを丁寧に読み込み、戯曲の中にある「音」から関係性、情感、人間像を掘り起こしつつ、形式音だけの交換にならないようにという演出方針の元、研修が行われました。長谷川伸戯曲を現在からとらえるとき、歌舞伎、新派、新国劇などが持っていた様式を学ぶことは多く、台詞を声に出して読むとき説得力を持つが、そこには様式を支える裏付けとなるものがもう一度問われる。御笠ノ氏は、それらの裏付けの原点に、言葉の交換、感情の交換があるのではないかと問い、現代人としての視点を提示する試みとなりました。

『刺青奇偶』もまた参加者の大半が協会員となり、演出担当の福田善之氏からは動き、行為によって呼び起こされる長谷川伸戯曲の感情、演出協力の中村孝夫氏からは言葉によって導かれる仕草、感情を台詞から喚起させる興味深い研修セミナーとなりました。台本を持った立ち稽古を思わせる研



(山口浩章)

修は、戯曲読解の一つの方法として、台詞、ト書きにあるように動いてみることで、身体的行動が登場人物の感情、関係を裏付けていることを浮き彫りにし、節回しなどの様式から得られる長谷川伸の劇世界とはまた違った側面を照らすことになりました。研修の初日には、演出担当の福田氏から幼少時の長谷川伸演劇との出会いから、70年代になってもう一度長谷川伸戯曲を読み直したことが話され、佐藤忠男『長谷川伸論 義理人情とは何か』が長谷川伸を復古的に捉えるだけでなく、現在の視点を示唆するように、様式美だけではない長谷川伸へのアプローチについて話されました。

今回のシンポジウムは、会場からの発言を中心に、長谷川伸を再び読むということにある多種多様な発言が飛び交いました。様式的に思われる長谷川伸戯曲を読むとき、読んだことも、触れたこともない人も、分らないと思うよりも、そこにどこか見たことのある景色を想起してしまうことなど、長谷川伸戯曲を再び見出すシンポジウムとなりました。(佐々木治巳)



若手演出家コンクール2011 第一次審査通過者決定!!

中間報告

若手演出家コンクール2011の第一次審査会(ビデオDVD審査)が、2011年9月2日午前11時より日本演出者協会事務局(新宿芸能花伝舎)にて開催され、議論の末、第1次審査通過者15名が決定した。

審査にあたった審査員は、

青井陽治、大西一郎、木村繁、小林七緒、篠崎光正、佐野バビ市、智春、土橋淳志、西沢栄治、橋口幸絵、はせひろいち、広田淳一、深津篤史、御笠ノ忠次、流山児祥、和田喜夫

議事進行は実行委員長の大西一郎が行なった。

今年度の応募総数は81名であった。

今後、11月30日までの期間で、審査員が候補者の公演もしくは公演に準ずる通し稽古を実際に行き第二審査が行なわれ、最終審査進出4名(優秀賞)が決定する。

最終審査会は、2012年3月6日~11日の期間、下北沢「劇」小劇場にてその4名による作品上演を経て公開審査で最優秀賞が決定する。



第一次審査通過者は下記のとおりとなりました。

村井雄(千葉県)	平塚直隆(愛知県)
大塚竜也(神奈川県)	佐川大輔(東京都)
柏木俊彦(東京都)	川口俊和(東京都)
虎本剛(大阪府)	高間響(京都府)
永妻優一(千葉県)	キムラ真(東京都)
森山亮佑(大阪府)	高田ひとし(京都府)
戸田武臣(東京都)	木村佳南子(福岡県)
鈴木拓朗(東京都)	

※順不同

日本演出者協会 協会の事業担当

【理事長】 和田喜夫

【副理事長】 宮田慶子、流山児祥

【理事】 青井陽治、大西一郎、小林七緒、篠本賢一、篠崎光正、西沢栄治、ふじたあさや、鶴山仁、木嶋茂雄、鴻上尚史、坂手洋二、西川信廣、菊川徳之助、木村繁、深津篤史、松本祐子、山田恵理香、渡部ギユウ

(部名) 部長 ◆担当理事 ◆部員

【事業部】 小林七緒 ◆青井陽治、鶴山仁、菊川徳之助、木村繁、坂手洋二、篠崎光正、宮田慶子、流山児祥 ◆(東京) 千葉哲也、外波山文明、林英樹、羊屋白玉、松森望宏、(関西) 井之上淳、金子順子、木嶋茂雄、田中孝弥、棚瀬美幸、椋平淳、森本景文、山口浩章、芳川雅勇、(東海) 鹿目由紀、菊本健郎、齋藤敏明、竹内菊、はせひろいち、トリエユウスケ、(熊本) 亀井純太郎、山南純平、(仙台) 渡部ギユウ、(札幌) 清水友陽、(福岡) 山田恵理香

【国際部】 篠本賢一 ◆青井陽治、鶴山仁、貝山武久、坂手洋二、堀江ひろゆき、松本祐子、森井睦 ◆(東京) 青柳敦子、家田淳、小林拓生、黒川逸朗、佐々木治己、左藤慶、中野志朗、林英樹、洪明花、前嶋のの、松森望宏、(関西) 坂手日登美、全リンド、田中孝弥、棚瀬美幸、土橋淳志、(東海) 佐久間広一郎、ほりみか、本島勲、(仙台) 伊藤み弥

【広報部】 篠崎光正 ◆菊川徳之助、篠本賢一、森井睦、流山児祥 ◆(東京) 秋葉舞瀧子、今井夢視、大杉良、小川功治朗、桑原秀一、鈴木美恵子、林未知、平尾麻衣子、三谷麻里子、緑川憲仁、(関西) 木嶋茂雄、田中孝弥、(東海) ほりみか、(新潟) 井上ほりりん、(京都) 松宮信男、(福岡) 糸山裕子

【教育出版部】 坂手洋二 ◆青井陽治、鴻上尚史、ふじたあさや、流山児祥 ◆(東京) 佐々木治己

【法務部】 西川信廣 ◆鶴山仁、小林七緒

【地域交流部】 流山児祥 ◆鴻上尚史、深津篤史、山田恵理香、渡部ギユウ ◆(熊本) 村上精一、(東海) 水野誠子、(仙台) なかじょうのぶ

【観劇案内】 (東京) 遠藤栄藏、(関西) 木嶋茂雄、(東海) 金子康雄

【日韓演劇交流センター委員】 小松杏里、松本祐子

【監事】 福田悦雄、(関西) 栗田尚右、今泉おさむ

【評議員】 内山鶏、瓜生正美、貝山武久、栗山民也、中村孝夫、福田善之

【事務局長】 大西一郎 【副事務局長】 篠本賢一、齋藤由夏 【事務局】 上田郁子、(関

西) 木嶋茂雄、(東海) 金子康雄

各地域活動通信

関西ブロック

関西ブロックのこの数ヶ月は、来年2月に実行する「日韓演劇フェスティバル」の企画、準備に追われたことです。かなり大がかりなフェスティバルになります。韓国から演出家を招いて、日本の役者で舞台をつくり、マダン劇も招聘します。在日の人たちの2劇団の公演の参加もあり、地元劇団の公演や、リーディングの企画などです。来年2月はじめから3週間です。

今年、ブロック役員の交代の時期を迎え、10年ブロック長を務めた者から新しい人材にバトンタッチも考えられました。諸々の事情で、現ブロック長が継続して努めることになりました。8月には、交流セミナーでスイス特集でした。スイスから若い演出家を招き、日本の演出家たちが、一つの作品を題材に討議する〈ブレインストーミング〉形式で、なかなか面白いというのか、意味のある討論の場だったと思います。日本の演出家は、孤独で独学で一人で作業するケースがついていますが、スタッフも含めたグループ討論は意味があったと思われます。東京でも行なわれました。

関西は相変わらず、適応する劇場がありません。それでも小劇場空間で魅力ある舞台が公演されています。ウイングフ

イールド、伊丹アイホール、アトリエ劇研、神戸アートヴィレッジ、吹田のメイシアター。中ホールでは、大丸心齋橋劇場、ABCホールなどです。中でも、小劇場空間ですが、劇団創立40周年を迎え、創作劇で記念公演した劇団大阪の「谷町劇場」も奮闘しています。

【菊川徳之助／関西ブロック代表】

東海ブロック

この夏、名古屋でめずらしい稽古がおこなわれている。岐阜自慢ジカブキプロジェクトの主催で、岐阜の地歌舞伎の師匠中村津多七師の指導により、名古屋の新劇、小劇場、児童演劇の女優達による『青砥稿花紅色彩画〜白浪五人男』だ。劇座の堀優子、劇座の寺田夏梨、劇団B級遊撃隊の斉藤やよい、劇団あおきりみかんの松野有加里、フリーの越賀波奈子（元劇団うりんこ）、まさに実力ある女優達による異色の五人女である。そもそも地歌舞伎は岐阜の東美濃地方で盛んであるが、その師匠の振り付けで現代演劇の女優たちが挑戦するのはおそろしく初めてであろう。科白回しは師匠と一対一でまさに口うつし。町人上り、職人風小姓あがり……その役によっては語尾はもっとはね上げる！ノコギリ抑揚はだめ

もっと平板に。唐傘の持ち方も役によっ

てまったく違う。普段、型によって役の

心を演ずると言う事に慣れていない女優陣も、慣れぬ浴衣を着こなして日に日に地歌舞伎の醍醐味を楽しんでいるかに見える。この「白浪五人女」、名古屋での初演に続き、9月16日〜19日、演劇CAMP in 中津川の呼び物として常盤座、明治座など地歌舞伎小屋で連続上演される。

昨年に続いてこの大みそかも『ミソゲキ2011』という年越し演劇イベントが予定されている。晦日ゲキ（味噌ゲキ？）とはなんとも名古屋らしいネーミングで、結成1〜2年の若手劇団が大名そかに集合して年越し上演会をやるらしい。ちなみに昨年の参加劇団は『オレンヂスタ』『牛乳地獄』『虚構オメガ』『劇的ショウゲキジョウ』『ゲボゲボ』『孤独部』『ザ・シャカリキ』『体現帝国』『チェルシイとバニーガール』『リッピンペン少年少女探検隊』の10団体。2日で各4ステージを上演し全公演大入り盛況だった。主催は東海地方の演劇情報をホームページで発信し続ける名古屋演劇アーカイブ会場はJR名古屋駅10分に開場した演劇空間ナンジャール。近年開場した伏見のG/pitは老舗の七ツ寺共同スタジオと並ぶ小劇場の拠点となりつつあるが、このナンジャールがまた名古屋の演劇拠点になるか注目している。劇場ではJR名古屋駅に近いので岐阜や三重、東西との接点になりたい。また若手劇団のために泊まり込みでの練習、早朝や深夜の要望にもできるだけ応えていきたいと言っている。

このところ三重県での新入会員が増えている。次回は三重県の演劇レポートを

特集したいと思う。

【木村繁／東海ブロック代表】

旭川

旭川は北海道第二の都市です。土壌にも恵まれ大雪山連邦の麓には田園が広がり、温かい環境から吹奏楽、合唱、彫刻、木工、作家、役者と沢山の著名人を輩出しています。しかしながら、なかなか劇団が育たない街でもあるのです。十五年前、この状況を打破するため行政と話し合い官民一体型モデル団体・劇団「D&E」を発足。ミュージカル&演劇公演、演劇&舞台WS、講演等の活動をしていきますが、新劇団の産声はなかなか上がらなく、劇団数は札幌（100団体）の1/10以下。舞台人は多いですがプロデュース公演に走る団体が多く、定期的に活動している劇団はほとんど無いのが現状です。その要因を挙げるならば、民間運営の劇場が無く、公共施設である旭川市民文化会館大ホール・小ホール、公会堂の3公共施設に頼るしかないのです。そのため会場抽選に落選し公演延期・中止という場合も少なくありません。今年も7月にTS企画というプロデュース団体と劇乃素艶屋が演劇公演を行ったのみ。「旭川は小屋不足」：発表する場所が無いため劇団が育たないのです。しかし、行政や民間有志が新施設を作ったところで、今の文化芸術団体数だと年間利用数も頭打ち赤字になるのは必至。施設を作ればその場所を利用して新団体が増えるかも知れませんが、それは大きな賭け。行政も民間もなかなか手が出せないのです。「卵が先か鶏が先か（汗）」しか

し、このまま現状を傍観していても前には進みません。そこで昨年から演劇大学in旭川を旭川大学で行っています。そう、まずは「卵」です。演劇大学を行うことで演劇人や劇団を増やし、舞台に立つ素晴らしさを多くの方々に伝えたいと思っています。今年は「演劇を肌で感じよう」をテーマに新人発掘を心掛けたカリキュラムで挑みたいと現在思案中です。

【森ただひろ／劇団「D&E」】

高知

高知は人口約80万人、森林面積割合83%と日本一の緑豊かなところですが、「文化の育ちにくい所」といわれています。（遠流の地と言われ、方言には言葉葉がちらほら。）そういう土壌の中、高知市では、60年ほどの歴史をもつ団体を含める老舗が数劇団あります。その他に、大学の演劇研究会を中心とした学生演劇から派生した集団がいくつかできて、彼らを中心に10年ほど前から若手劇団間でネットワークができてきました。彼らは高校演劇の指導育成をはじめ、（そして生の舞台の数が圧倒的に少ない地方の悲しさ。）観客の動員の増加やマネー向上などを目標に、演劇を生活の中に溶け込ませようと、アイデアを出し合い協力しています。また、20数年前の市民ミュージカルの出演者が、今では指導者として大きな力となり、小さな子どもたちや若者にミュージカルや演劇の芽を植え付けて育っています。そして高知の文化を語る上で、今年で58年目となる「よきこい祭り」は外せません。「魅せる」祭りの中では、踊り子も舞台に立つ役者なのです。

このよきこい祭りを今の形に大きく変え、全国に広がらせた先人が「よきこい祭り」を「過性のブームではなく定着した文化にしなければ」という言葉を残し今年他界しました。彼女もまた演劇界の人でした。当たり前ですが、地方（高知）から出て地方（高知）に帰るリターン組の指導者には、地方（高知）に居て地方（高知）で育った者にはない視野の広さがあります。高知にもいろんな指導者が育ってきています。そんな中、満を持して開催された今年の演劇大学（こゝろ）。参加者も、実行委員会の私たちも、水を吸う乾いた砂のごとく、とはこの事。全国で活躍する講師の方々にエネルギーをいただき、（まさに運命の出会い）地方の小劇団コンプレックスの塊りだった私も、はじめてました。先の震災で、今この瞬間の大切さを身にしみて感じた私たち。今私たちに何ができるか。何がしたいか……

来々年4月に開催予定の演劇大学（こゝろ）が楽しみでなりません。

【吉本智賀子／演劇大学in高知実行委員長】

熊本

熊本の春夏「町の劇場化プロジェクト」

3月11日（東北大地震の日）から熊本市河原町にて劇団夢枕敷「ねじ式復活篇」公演を行った。

この町は「河原町文化開発所」が企画するアートの町づくりが行われているところで、若い美術家やミュージシャンたちが集まっている。昭和レトロが残る熊本の下町である。シャッター街。

【選挙結果】

①	和田喜夫	101	票
②	流山児祥	75	票
③	坂手洋二	74	票
④	ふじたあさや	69	票
⑤	宮田慶子	58	票
⑥	青井陽治	55	票
⑦	鶴山仁	49	票
⑧	篠崎光正	43	票
⑨	菊川徳之助	41	票
⑩	小林七緒	40	票
⑪	大西一郎	38	票
⑫	木村繁	34	票
⑬	鴻上尚史	32	票
⑭	西川信廣	32	票

次点
⑮ 堀江ひろゆき 27 票

以下			
⑯	松本祐子	25	票
⑰	深津篤史	24	票
⑱	鈴木裕美	23	票
⑲	栗山民也	23	票
⑳	貝山武久	22	票
㉑	篠本賢一	19	票
無効票		14	票
白票		11	票
FAX または別用紙		3	票

理事会報告Ⅰ

「ねじ式」公演を機会にこの町そのものの劇場化プロジェクトが始まった。思いついて4月より「河原町アートの日」（毎月第二日曜日開催中）から8月まで参加した。福岡から熊本支部を作り来た劇団飯面工房、ダンサー、ROCKグループなどと組んでコラボをした。

5月公演「KAGUYA」も同町にて行う。演劇と町が少しずつ動き始める。つまり、人が集う場所になりつつある。「演劇人として何ができるだろう」……関わり方によっては町が面白くなる。

6月、この町を舞台に実験映画(DVD)に取り掛かった。路地裏が、昭和の看板（問屋など）が、そして町で生きている人々が俳優やダンサーたちと交わった。

7月、市街劇を行う。会場は駐車場と歩行者天国。ハッピングを楽しむ通行人たち。

8月、この駐車場にてテント劇を行う。熊本の演劇事情の一部ですが、このような形で町の劇場化計画を実践中です。

【山南純平／劇団夢枕敷】

総会報告

- ◎総会 7月31日（日）
於：芸能花伝舎教室3・2
- 出席予定者：25名十委任：329名
- 総会出席者：661名
- 議長の見出し 瓜生正美氏 選挙管理委員今井、大西、佐々木、斎藤、立会人：林英樹
- ◎2010年度の活動報告
- 演劇大学の活動報告（報告：和田喜夫）
- 国際部活動の報告（報告：篠本賢一）
- 若手コンクール（報告：大西一郎）
- 近代戯曲研修セミナー（報告：篠本賢一）
- 広報部より（報告：篠崎光正）
- 観劇案内について提案（遠藤栄蔵）

○韓国演劇演出家協会より様々な連絡がきている件

○文化庁の体制について

◎2010年度会計報告

- 一般会計の報告（報告：斎藤由夏）
- 特別会計（報告：和田喜夫）
- 監事の福田悦雄さんの監査報告
- 協会の法人化について（報告：大西一郎）

◎2011年度 各事業ごとの報告

- 事業部（報告：和田喜夫）
- 近代戯曲研修セミナー（報告：佐々木治己）
- 国際部（報告：篠本賢一）
- 演劇キャンピング中津川（報告：木村繁）
- 広報部（報告：篠崎光正）
- フェニックス・プロジェクト（報告：深津齊、青井陽治）

◎2011年会計予算案

- 一般予算案（報告：和田喜夫）
- 地域ブロック
- 関西（報告：菊川徳之助）
- 東海（報告：木村繁）
- 理事選挙結果発表
- 開票作業について、立会人、林より「厳正に開票がなされた」と報告。

理事会報告Ⅱ

- ◎第1回理事会
- 8月18日定例総会を受けて、8月18日（木）新しく選出された理事による第1回理事会が開催され、新理事長選挙により和田喜夫氏が新理事長に就任。さらに理事長推薦理事7名（木嶋茂雄、篠本賢一、西沢栄治、深津篤史、松本祐子、山田恵理香、渡部ギユウ）を選出。
- ◎第2回理事会
- 9月3日出席理事：10名 委任状：11名
- 台風の影響により、東海・関西圏からの

理事は欠席となった。

- ①理事長を中心に今年度事業の概要・方向性が確認された。
- ②指名理事の体調不安の件
- ③評議員選任を決定
- ④監事の依頼の件
- ⑤各部について
- ⑥50周年事業は廃止。
- ⑦その他

☆フェニックスの今後。9月末開催の東北WEEK@相鉄本多劇場への協力等

☆中津川演劇CAMPの確認等

☆若手演出家コンクール2011第2次審査の確認等

文責：大西一郎

（日本演出者協会理事・事務局長）

※各部署および担当理事は下記のとおり

- 【事業部】 統括：小林七緒
- ☆コンクール ④大西一郎 ⑤西沢栄治
- ☆演劇大学 ⑥小林七緒 ⑦青井陽治
- ☆日韓 ⑧宮田慶子 ⑨流山児祥
- 担：菊川徳之助、木嶋茂雄、山田恵理香
- ☆中津川 ⑩木村繁 ⑪ふじたあさや
- ☆近代戯曲 ⑫青井陽治 ⑬篠本賢一
- 担：西沢栄治
- ☆フェニックス ⑭大西一郎 ⑮松本祐子
- 担：※渡部ギユウ氏にも参加を打診する
- ☆子ども部 ⑯ふじたあさや
- 【国際部】 ⑰篠本賢一 ⑱青井陽治
- 担：鴻上尚史
- 【広報部】 ⑲篠崎光正 ⑳篠本賢一
- 【教育出版部】 ㉑坂手洋二 ㉒菊川徳之助
- 【法務部】 ㉓西川信廣 ㉔鶴山仁
- 【地域交流部】 ㉕流山児祥 担当：木嶋茂雄、山田恵理香、渡部ギユウ
- 観劇案内と日韓交流センターは現状メンバーで継続。

新 会員紹介

(11年2月まで)

青木淑子 (あおき・よしこ)



▼38年間高校演劇の顧問として青春まったた中の連中と「演劇」を楽しんできた

した。▼中でも聾学校での12年間は、耳の不自由な生徒達との演劇を通じた表現教育に取り組み、「ことば」が伝わることの難しさと喜びをしっかりと教えられました。現在は福島県郡山市でアマチュア劇団(朗読集団10パーセント)を主宰。また市内の専門学校で「国語表現法」「演技演習」などの講師を務めています。3・11の震災後の日々の中で、「心」を伝える「ことば」の大切さと、それを「表現する力」の心技一体をめざすことを決意。7月、協会主催のフェニックスプロジェクトに参加。9月、5in郡山を立ち上げました。地域が「演劇」で元気になることをめざします。日本演劇教育連盟会員(平2演劇教育賞受賞) 全国高校演劇連盟顧問。

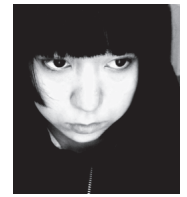
上田一豪 (うへだ・いっこう)



▼東宝演出部所属、TOTO主宰。大学在学中よりオリジナルミュージカルを

創作しこれまで10本の作・演出作品を上演。群衆ミュージカルからシチュエーションコメディ、ナンセンスまで幅広いジャンルを書き分け、奇抜なシチュエーションやキャラクターをポップに描き出す演出力に定評がある。代表作は『Oh My お葬式』『タカダツカ狂奏曲』『宇宙ダイヤモンド』。▼現在は2012年のNew York Musical Theater Festival参加に向けて鋭意活動中。▼10/21〜10/24にNY公演向けのワークショップ公演を予定。▼詳細は<http://www.ttpap.jp/>にて公開中。

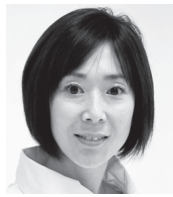
大川珠季 (おおかわ・たまき)



▼演出、テクスト(元・劇団はみだしっ子主宰)▼09年日本大学芸術学部演

劇学科演出コース卒、11年同大学芸術学研究科舞台芸術専攻博士前期課程終了。修士論文「一人称告白体小説の上演テクスト化―太宰治『駆込み訴へ』の解体と再構築」(湯川制賞)。学部在籍時より既存作品やオリジナル作品の潤色、演出を行う。現在はサービス業に携わりながらドイツ語を勉強中2011年内に就職活動をテーマにしたGap Topical即ち聴く演劇を<http://tamakihawa.com/>に発表予定。

門脇幸 (かどわき・さち)



▼1987年ミュージカル『アニー』篠崎光正演出にて子役としてデ

ビュー。その後フリーにてミュージカル『シグナスとレオ』福田善之演出や東宝、劇団四季の舞台出演。退団後、映画『MAZE』の制作に携わった事をきっかけに、2005年子供たちの総合エンターテイメントスクールシエロクラブを設立。地元で、オリジナル脚本ミュージカル『ピーターパン』『やさしいライオン』『夢の代役』やイベントの演出を行う。現在は「おさかな天国2010」で

メジャーデビューした高知県おさかなPR大使・川村あやの、高知県観光特使のジュニアアイドル・はちきんガールズのプロデュースを中心に活動中。

川村ミチル (かわむら・みちる)



▼劇団そらのゆめ主宰。20年間劇団うりんこに在籍後独立。俳優として

2000ステージ以上の舞台を踏む。演出作品には『お月さまのたまご』『ゆめたまご』『星のまつり』『ほたる館物語』『夏想い』等、一般公演の他、全国巡演作品市民創作劇などがある。幼児から大人対象の演劇ワークショップ、学校での表現教育授業、保育士、教員へ向けての現職教育の講師も多く務める。まだまだ、演出家と言うには勉強不足ですが、先輩方の傍にいれば何か学ばせていただけるのではないかと入会いたしました。いろいろとワクワクしています。どうぞよろしくお願いたします。

澤藤桂 (さわふじ・かつら)



▼所属、青果鹿(せいかし)か。劇作、演出担当。▼若手県金ヶ崎町

出身。劇団東演俳優養成所、劇作家協会戯曲セミナーを経て、2004年、八木澤賢らとともに、劇団「青果鹿」を立ち

杉山剛志 (すぎやま・つよし)



▼演出家▼演劇カンパニーア・ラ・プラス主宰▼ワダ・ユタカに師事シスター

スラフスキシステムを体系的に5年間学ぶ▼04年に劇団を設立▼08年より、モスクワにある国立劇場モスソヴィエト劇場にて芸術監督演出家ユリー・エリョーミンに師事し演出助手として就く▼【主な演出作品】『僕らは生まれ変わった木の葉のように』(パリ・日本文化会館にて公演)、『狂人日記』、『授業』(利賀演劇人コンクール2011選出作品、劇団俳優が優秀演劇人賞を受賞)▼劇団黒アントなど他団体での演出活動、大学や文化財団などでワークショップの活動も行う▼演劇を通して、人生を洞察し、人生の秘密を解き明かすような芝居を創ってきたい。

退会..

浅野晴子、八木亮三
吉村八月、すがの公

菅原星子(すがわら・せいこ)



▼岩手、北上市
民劇場を盛り
上げる会「やっ
べし」、NPO
「芸術工房」会
員。▼三十四年前、第一回市民劇場に音
楽で参加したことが、今につながって
います。何かをみんなで創り上げるとい
うことは素晴らしいことです。やめられま
せん。▼とにかく「表現する」ことに興
味があります。世の中のほとんどの芸術
要素が凝縮されている「演劇」という分
野の魅力と可能性に非常に惹かれていま
す。▼今年一月、演劇大学in盛岡でお世
話になりました。私にとってはレベルの
高い、ものすごく面白い場を体験するこ
とができました。新しい目が開けた気が
したところで、今回の震災でした。みな
さんの物心両面からの御支援に感謝しま
す。今こそ、演劇の力、芸術の力を信じ
て生きていこうと思っています。

須藤黄英(すどう・きえ)



▼劇団に入って
9年目。活動、
出会いなど交流
の場が広がれば
と思って入会し
ました。さっそく来年1月「第2回日韓
演劇フェスティバル」のロビーリーディ
ングに参加させていただきます。初韓国
戯曲、楽しみにしています。宜しくお願
いいたします!▼劇団青年座 文芸部所

属。演出作品に土田英生『その受話器は
ロバの耳』、飯島早苗『リバウンド・チャ
ンス』などの書き下ろし作品、今年8月
に宮本研『ほととぎす・ほととぎす』等
がある。

高橋純(たかはし・じゅん)



▼秋田県横手市
在住。劇作家、
演出家。▼日本
大学卒業後、劇
作、演出のほか

イベントの企画、構成、演出を手がける。
▼一九九三年から加藤直演出の『浪漫ラ
プソディ』シリーズ4部作の原作脚本を
担当。平行して町内会全員参加劇団のプ
ロデュースを一〇年継続。▼二〇〇七年
チェホフを全編秋田弁で翻案した『結婚
の申込』を演出しウラジオストクビエン
ナーレに参加。同年、平均年齢七十四歳
の超高齢者劇団へ作品を提供し、前進座
劇場ほかを巡演。▼二〇一〇年、秋田
県演劇団体連盟四十五周年記念公演『北
天の儀軌 群読後三年合戦絵詞』を構成
演出▼現在、創作子ども歌舞伎の企画が
進行中。▼一九九四年秋田県演劇章受章。
日本劇作家協会会員。秋田県演劇団体連
盟理事。

高橋亮(たかはし・りょう)



▼Outsideと
言う所属ですが、
劇団と言うわけ
ではなくユニツ
ト名です。▼

作・演出・舞台監督・照明・音響と舞台
全般や、イベント進行ディレクターなど
もやっています。▼舞台をやる上で、舞
台監督と演出の両立は難しいとよく言わ
れます。確かに、舞台の出来る事、出来
ないことを考えると自由な発想は制限さ
れていくものかもしれませんが、切り離
して考えるようにしています。お勧めし
ません。▼心理ミステリと言うジャンル
を主に書いています。難しい内容ですが、
とにかくチャレンジをしています。

松島寛和(まつしま・ひろかず)



▼高知市を中心
に活動する劇団
シアターホリス
クを主宰▼演出
家、劇作家。俳

優2004年旗揚げ。これまで年間2〜
3作品のペースで本公演と番外公演を上
演。劇団制作の全作品で演出を担当▼
演出する作品のほとんどで自作の脚本を
用いるが、リーディングや普段の稽古に
おいては古典劇を取り上げることも多い
▼高知市の小劇場劇団が集まって構成
される『高知演劇ネットワーク』に参加
2011年からは事務局長を務める▼熊
本県出身。

山田裕幸(やまだ・ひろゆき)



▼劇団ユニーク
ポイント代表
劇作家、演出家
です。1971
年生まれなので、

今年でちょうど40歳になりました。板橋
のアトリエセンティオを、第七劇場の鳴
海氏と共同運営しています。最近の主な
演出作品は『水飲み鳥/溺愛』『通りゃ
んせ』『シンクロノイズド・ガロア』など。
下北沢の小劇場、座・高円寺、そしてア
トリエと、いろいろな劇場サイズ作品
を上演しています。2005年からは韓
国演劇人との共同作業にも力を注いでお
り、韓国公演も行いました。震災後の解
けた紐のようなコミュニケーションに、私た
ち演出家の役割はますます大きくなるよ
うな気がします。

油田 晃(ゆだ・あきら)



▼1973年
三重県松阪市
生まれ。劇団
H.I. Positionに
主宰。▼20

06年三重県津市に小劇場「津あけぼ
の座」をオープン、コンテンツを統括す
る支配人に。▼三重県から演劇を通じた
様々な発信や、「津あけぼの座」を拠点
に全国の皆様が公演を行って頂き、交流
できる所になればと思っています。

良川正美(よしかわ・まさみ)



▼山口県立下関
南校等学校演劇
部顧問▼山口県
出身。同志社大
学文学部文化学

科文化史学専攻卒業▼当初は成り行きで
演劇部の顧問となり、三つの高校で通算
13年目と成ります。次第に、生徒たちの
懸命な高校演劇への取り組みを引かれ、
今では上演に何とか少しでもよい助言が
できないかと勉強しています▼演劇の世界
は知れば知るほど奥が深く「正解」はあ
りません。生徒たちと、少しでも観客の心
に訴える上演ができればと思っています。

米倉真理(よねくら・まり)



▼ワールドパ
フォーマーズ
カンパニー所属
俳優・演劇講
師・演出家。▼

山口県出身。名古屋在住。▼1993
年より演劇を始め、多数の作品、イギリ
ス、スペインでの海外公演にも出演。▼
俳優業の傍ら演出助手を務め、演出も務
めるようになる。▼2011年12月には
谷川俊太郎「部屋」を演出として上演予
定。▼言霊を大事にした芝居を軸として
おり、古事記・筑紫舞など古典芸能の伝
承にも尽力しています。また、ロシアの
俳優・演出家ワレリー・ペリャコービツ
チ氏との出会いにより本格的に演出を勉
強したいと協会へ入会させて頂きました。

アンケート

広報部では協会員に次の二項目のアンケートを実施しました。

Q1 あなたが無条件で劇場を建てられるとしたら、

どこに建てますか？〈自由記述〉

Q2 日本演出者協会の一番大切な役割とは、

何だと思えますか？(20頁に掲載)

〈選択回答〉

- ① 権利の保護
- ② 職種の確立
- ③ 技能向上
- ④ 後進育成
- ⑤ 相互交流
- ⑥ 情報の収集と保存

芸術の秋、皆様多忙を極めてか、若干回収数が少なくはありますが、25名の回答をいただきました(内3名無記名)。ありがとございました。今回の記述は「無条件」ということで、幅広い自由な回答が得られました。今後ともご協力よろしく願っています。

〔編集部〕

Q1 あなたが無条件で劇場を建てられるとしたら、どこに建てますか？

粟田尚右 ㊟

自分自身が住んでいる町に。私は古都・奈良市に住んでいます。舞台機構の充実・整備された劇場があります。「100年会館」という30000人入る劇場と言われる巨大な会館があるだけです。《人間》が「劇」を楽しむ劇場が欲しいと思うことしきりです。

今泉おさむ ㊟

漠然としますが、地元の枚方市に。中学校・高校演劇部から一般劇団・個人も包括した「枚方演劇連絡会」結成11年目。年6回機関誌発行。演劇セミナー・ワークショップ、こどもミュージカルを開催。築40年を越す市民会館・ホール建て替え運動中。

今井夢視 ㊟

月に劇場を建てたいです。無条件なので突飛なもので構わないと思うので。月は地震が多いので対策をしなければなりません。宇宙で芝居をやるのも楽しいかと。

瓜生正美 ㊟

都心から無料バスを走らせる前提で奥多摩のどこか温泉地。劇場には、無論、温泉が引いてあり、宿泊設備もとのついている。希望者は勿論、泊まり込みで、演劇論議の華を咲かせるといったことが可能。国と都と自治体か

ら助成をえて…街おこし事業でもある。…夢かな？

大杉良 ㊟

天空の城ラピュタ。世界中の各地にそのまま飛んでゆき公演できる！(つまらない回答ですみません。無条件という出題に超反応してしまいました。)

小川功治朗 ㊟

大きな劇場の広いロビーなど、空いたスペースの隅っこに、こじんまりとした小さな劇場をつくりたいです。

加倉幸治 ㊟

岩手県沿岸で文化会館が津波の被害にあった釜石市か陸前高田市

勝然武美 ㊟

二子玉川です。理由。環境が良い。演劇演劇していない地域ということ。演劇以外の楽しみもある。今後可能性のある街であること。

河東けい ㊟

日本に最適な処があるのかどうか知らないのですが、どこか云えないけれど、Stratford-upon-Avonのように、緑あり、水あり、平地が主で、街から30分ぐらいで行け、穏やかな人々のいる処があれば、そこを選びます。銀河ホー

ル(岩手)、しいの実劇場(島根)も良いですね。

菊川徳之助 ㊟

京都御所

小林和樹 ㊟

何よりも観客にとって便利なところ。東京芸術劇場など理想的だと思える。不可能を承知の上で敢て言えば、秋葉原。あるいは丸の内。

小松越雄 ㊟

海に浮かぶ劇場。海辺に建てる。砂浜に劇場が建てられていて、劇場を開けると海が見える。海の中から人や魚、そして天使が現れる。そこはまるで竜宮城の世界だ。

こむろこうじ ㊟

陸前高田市内

篠崎光正 ㊟

新橋に建てたい。サラリーマンの観客層を育てたいのと、親子で劇場に訪れる人々を増やしたい。母子だけではなく父子の観客層を。

杉山健 ㊟

出来得れば若者たちが集う交通の便の良い所。渋谷、新宿、池袋のあたりか。(しかしそれより劇場設備の充



実！照明、音響設備、また道具の搬入口等）

関谷真司 ㊟

単純に人が多く集まる場所を考えます。年齢層などもあると思いますが、私は渋谷駅近辺です。ふらっと立寄れる会場になるのでは……とも思いますし。

田辺晴通 ㊟

横浜駅西口、現相鉄本多劇場隣接の駐車場。客席300・150の2ステージ。および稽古スペース3。当然地下を駐車場にし、ホール上部はマンションとする。

中村哮夫 ㊟

私が今住んでいる所。六本木5丁目（鳥居坂の上辺り）です。目下森ビルによる再開発計画が進んでいて新しい町が七八年後には出来ると言われていますが、その計画は商業的側面が極めて強く文化的側面は殆どない。目下反対運動を始めておりますが……。

西田了 ㊟

かつて新劇の牙城ともなっていた築地小劇場にほど近い場所へ、新たな劇場を建設したい。（地区は東銀座。現在建設中の歌舞伎座劇場と相対する近辺。）同劇場を新現代演劇の進展をめざす拠点としたい。

三谷麻里子 ㊟

渋谷区や港区の住宅街の中。

都会なのにアクセスが悪いところ。小さなものをこっそりと。

劇場に行くまでも含めて演劇です、という気持ちを込めて。

山下裕士 ㊟

練馬。理由①芸術系の大学などが多いにもかかわらず劇場が少ない。②大江戸線、有楽町線、西武線と交通の便がいい。

弓澤玲子 ㊟

地域での演劇活動を続けていますので、私の家に近いところ。ご近所さんが、交通時間をかけずに出かけられる場所。

無記名

福島県、宮城県、岩手県

無記名

大都市の地下に24h使用可。

無記名

千葉に民間小劇場を建てたい。（東京と千葉県のさかい。主に市川など。）

部会だより

事業部

今年度前半の事業は「フェニックスプロジェクト」から始まりました。東日本大震災被災地の舞台芸術家支援のためのイベントです。若手の協会員が中心になって、6月7月8月とまずは3回開催し、支援金を集めるだけでなく、被災された方と共に考える場になりました。今度も協会の事業として継続的に行っていきます。「演劇大学」は下関、松山、福岡が行われました。回を重ねるごとに地元実行委員のやりたいことも明確になり、地域の特徴をいかした演劇大学になっていくようです。この後、郡山、千葉、旭川、廿日市、盛岡と続きます。「演劇 CAMP in 中津川」は3年目。地歌舞伎の伝統と、そこで演じられる現代劇が無理なく共存する、懐の深いCAMPに成長してきました。「若手コンクール」は二次審査中。今年から過去の最優秀賞受賞者が審査員が増えて、審査の目が多様化しています。「近代戯曲」は9月に東京で開催されました。「日韓」はただいま来年の開催に向けて準備中です。事業の拡大にもない、各事業を部門分けして、担当理事が進行していくことにしました。前記6部門に加えて「こども部」を新設し、ニーズの増えてきた子供関連の事業を行っていきます。（小林七緒）

国際部

ここ数年、俳優の身体を考察するセミナーを継続的に実施してきましたが、今年度は、演出家の技能向上に焦点をあてたセミナーに取り組んでいます。俳優が技術を磨く方法はいろいろありますが、演出家がスキルアップするための方針、それを試みる場はあまりありません。受講している演出家が互いの演出プランを提示し合い、演出の方法を探るワークショップは、会員の皆さんにとっても有意義なものだと思います。奮ってご参加ください。（篠本賢一）

広報部

今夏総選挙により執行部も新体制になりましたが、広報部は再び篠崎が部長を務めることになりました。よろしくお願ひします。現在協会誌「D」を半年に1冊発行していますが、協会活動を会員や社会に広報するため創刊した協会誌「D」は早くも3歳6ヶ月の幼児に成長し、続いて今期開設した弟分のニューホームページは、6ヶ月の赤ん坊に育ちました。まだまだヨチヨチ歩きのホームページですが、今後順調に成長を遂げるように、大切育てていくつもりです。現在この協会には、インターネット環境のない会員もおられますが、そのような会員には、携帯電話による利用方法を提案し、幅広い年齢層に広報部ホームページをご利用願いたく準備をすすめる所存です。なお、もうすぐ産まれそうなのが、3番目の妹分のメルマガですが、近く活動を始めるはずで、ご利用ください。（篠崎光正）

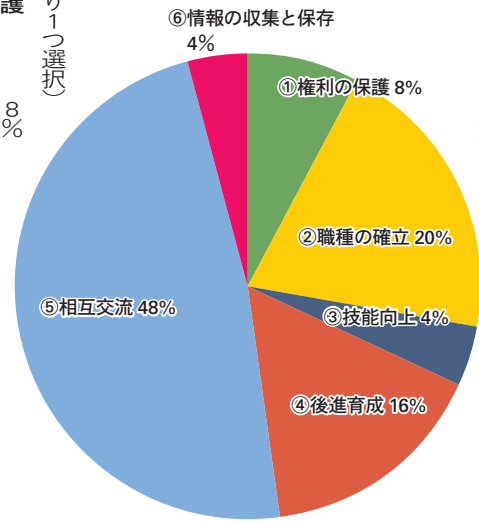
法務部

法務部として緊急に取り組むべきは新しい課題は今のところありません。演出家の権利を守って行きたいと、絶えず思っています。その点に関して、契約上等のことでお困りのことがあればご連絡下さい。また、数年前から議論されてきた劇場法、日本版アーツカウンシルの今後について、演劇を取り巻く創造環境の問題として注目していきたいと考えています。（西川信廣）

地域交流部

協会に入会して20年以上になる。在外研修目当てに40歳過ぎて入会。ロンドン研修の推薦人に千田是也理事長になってもらった。で、お礼奉公として最年少理事となったのが協会との出会い。国際交流セミナー、演劇大学、若手演出家コンクールと和田喜夫さんと一緒に、その後事業展開。真の舞台演出家の為の協会へと成長している。協会の根幹は地域演劇との交流である。地域交流部の仕事は私の生涯の仕事？いつでも、どこでも、「楽しい水戸黄門しに行く」のでヨロシク。是非、呼んでください。協会の事業をアタタの街に。（流山児祥）

日本演出者協会の一歩大切な役割とは、何だと思えますか？



協会の在り方について、これまでさまざまな議論が行われてきたが、今回の回答はその方向性を示唆しているように思える。相互交流が圧倒的な半数近くを占め、会員の所属目的を明確に示している。これは現在各地から引っ張りだことなっている事業の演出家・俳優養成セミナー、通称演劇大学が相互交流という意味からも、会員から望まれている事業として納得のいく結果である。日本の演出家は、ほかの職業に比べ人数が少なく、また活動拠点が全国に広がっているため、大都市以外相互交流が満足に行えない状況にある。また、会員の相互交流は広報部としても、業務のひとつとして重要視している課題であり、検討を重ね充実させ会員のみなさんに新しい提案をしていきたい。

篠崎光正

ホームページ報告

現在、広報部では情報収集を行い、データを整理している段階です。各地で活躍されている会員のみなさんへ、良質な情報をお届けするために、会員の使いやすいホームページを目指し検討しています。

「協会はなにをしたか」——協会誌「D」は「協会はなにをしたか」を第1に掲げ、「過去」の事実を掲載。
「協会はなにをしているか」——ホームページは「協会はなにをしているか」をテーマに「現在」を中心に掲載。

①「過去」のデータを見やすく調べやすく整理し、協会事業などの活動記録を網羅できるライブラリーを構築。
②「現在」の活動を懇切丁寧に説明する項目別見出しの記事の充実。
③「未来」の協会予定を詳細に掲載し、参加者を募るなど事業の充実を計画。

④「世界」に窓を開き、会員の国際活動を支援。
以上の4つの分類により日本演出者協会のすべてを掲載しようと計画しています。

情報提供など会員のみなさんご協力をお願いしたい項目が多く、ホームページの成長・充実のためにぜひともご協力をよろしく願います。

「協会は近々こんなことをします」——ホームページよりもさらに細かい情報をリンクさせながら、メールマガジンで希望者に携帯やパソコンに送る計画をしています。ゆくゆくは、今日明日、明後日の情報が、常に送られてくるようになれば、大事な情報を忘れることがなくなります。

最後に、ホームページは協会の少ない予算にやさしいツールであり、特に、高年配会員にも携帯利用者が急増している現在メールマガジンも有効な広報に成長期待大です。



編集後記

▼編集作業は協会のあらゆる事業をこの1冊に凝縮する醍醐味があるのと同時に、各部の業績の中から記事を選抜する責任の重さを実感する。巷ではラッキーセブンで楽しいはずの数字の7が鋭い鎌の形に見えてならない。田んぼの鎌のように大事に稲穂を刈り取りたい。(篠崎光正)

▼フェニックスプロジェクトには六、七月に関わりましたが、協会内に生まれつつある新しいパワーを感じました。中津川、日韓と大きな事業が続きますが、これも総力戦で乗り切らなければなりません。皆さん、奮ってスタッフに加わってください。(篠本賢)

▼広報部の既婚者率が上がって来ているのでは？という話になりました。乱暴な言い方をすればパワースポットです。ぜひ、広報部に新たな仲間に来ていただきたいと思っています。

▼何かもう日々の生活に追われ過ぎて、広報部の会議にほとんど参加できませんでした。芝居の演出をする前に、自分の生活を素敵に演出する方法を考えないといけないと思う今日この頃です。(小川功治朗)

▼最近急に忙しくなってきたように感じる広報部員それぞれの仕事と広報部業務。構成員は全て演出家、公演前には動けないことと多々。嬉しい悲鳴と同じ声の強さで実働新入部員求ム。要きめ細やかさ・マメさ・文章力・校正力……(大杉良)

▼少し遠くの場所から見える広報部に在籍させて頂いて早一年。若い人の集まりが急速に早くなっていくのを感じる。何事も変化は瞬時に起こるから、これからもその変化を追っていかばいいと思う。(今井夢視)

日本演出者協会の運営は協会費で行われております。会費未納の方は、納入をよろしくお願い致します。

広報部員募集

協会誌『D』取材編集発行

協会 NEW ホームページ運営 <http://jda.jp>問合せ: kohobu@jda.jp

または広報部員に直接お問い合わせください。